

私は、本土の人間として、

沖繩とどう向き合うのかを考え続けている。辺野古埋め立てに関する県民投票の結果は、新基地に反対する圧倒的な県民の意思を示した。これを受けて、本土の人間も沖繩の負担について考えるべきだという論調がある。だが、何を考え、どう振る舞えばいいのか。

辺野古に基地を造らなければ普天間が固定化するという心配をする人もいる。普天間基地は一刻も早くなくしたい。同時に、辺野古に新基地を造ってほしくない、というのが県民の共通し

た思いだ。

## 論壇



柳沢 協二

では、普天間基地を本土で引き取ってほしいのかと言えば、それも違う。自分の所にあつてほしくないから本土に持つて行けというのが沖繩の思いであるはずがない。基地

という思いを共有することだ。沖繩に要らない基地は本土にも要らない、本土に置けない基地は沖繩にも置けないということに軸を置いて考えることだ。

ではない。まして今は、ミサイルの戦争だ。地理に関わりなく、軍事的に重要な場所が攻撃対象になる。沖繩が防波堤となつて本土が守られるような幻想を持つてはいけない。

だから、そこに米海兵隊がいることは、防衛上、何ら重要ではない。まして、日本を取り巻く戦争の危険は、日本自身がもつてになっているわけではなく、米中あるいは米朝の対立関係におおもどがある。米軍の駐留は、何もなければ抑止力かもしれないが、何かあればかえつて火種になりかねない。軍隊の存在とは、本来そういうものだ。

### 本土は何を考え、なすべきか

## 沖繩からの基地撤去、共有を

に脅かされ、基地に翻弄され暮らしたくないということだろう。

か、という心配はある。しかし万一、外国から攻撃されることになれば、沖繩だろうと北海道だろうと、日本が丸と

なつて守るのは当たり前のことだ。それは日本自身の問題であつて、米軍に任せること

新外交イニシアチブ(ND)は19日午後7時から沖繩市民小劇場あしびなーでシンポジウム「沖繩の未来を拓くー安全保障・経済の観点から」を開く。

それなら、本土の人間が考

えるべきことは、どこか本土で引き取るということではなく、沖繩から基地をなくせと

そもそも防衛とは、何を守

(東京都、元内閣官房副長官補、ND評議員、72歳)